

行政視察報告書

平成30年10月5日

委員会名		議会広報広聴常任委員会
参加者	委員長	楊 隆 子
	副委員長	鈴木 敦 子
	委 員	井 上 昌 彦 鈴木 和 宏 浅 野 彰 太 大 村 学 神 永 四 郎 俵 鋼 太 郎 吉 田 福 治
期 間		平成30年 7 月 2 3 日 (月) ～ 2 4 日 (火)
視察地、 調査項目 及び概要	大阪府 箕面市	<p>1. 議会だよりについて</p> <p>(1) 本市の現状と課題</p> <p>議会だよりは、議会のやりとりが文字として手元に残るという大きな特徴がある。しかし、市民に興味を持ってもらえず、掲載量のわりに周知ができていないという悩みを抱える自治体が多く存在する。本市も例外ではなく、難しい言葉をそのまま使用せざるを得ない状況も加わり、分かりにくいという声をきくことが多い。</p> <p>近年、議会だよりのリニューアルを行う市町村が多くなっている現状から、本市においても市民が手に取りたくなるような紙面づくりと、それに向けた課題の検証や協議が必要とされている。</p> <p>(2) 調査目的</p> <p>議会だよりの「読みやすさ」「親しみやすさ」を重点要素として紙面リニューアルを行い、実際に市民参画を成功させた先進市の事例を視察し、本市の議会だより編集方針の変更の参考とする。</p> <p>(3) 調査概要</p> <p>箕面市の議会だよりはこれまで、「読まれていない」「市広報誌と差がある」といった問題点が指摘されていた。問題解消に向け、平成25年2月、市議会だより編集方針の見直しが議会改革提案項目に位置づけられ、本格的に紙面リニューアルに向けての協議が始まった。</p> <p>平成25年4月、議会だより編集委員会を立ち上げて詳細を協議し、問題点の発見、市民からの意見を参考に改善案を考え、平成26年12月からは、より詳細なリニューアル方針を検討するため作業部会を設置。平成27年8月、市議会だより第100号よりリニューアルとなった。</p> <p>リニューアルを行うにあたり「読みやすさ」「親しみやすさ」を重点要素とし、読みやすくするために文字数を削減、写真・イラストを増やし、また、紙面をブロックで区切るといったレイアウトを採用。これまで市民より議会用語が理解できないとの声があったため、説明としてリード文や副題をつけるなどを行った。また、全ページのフルカラー化、議員の顔写真掲載、議員取材企画（議員まちある記）の開始、議会だよりの愛称募集及び表紙写真の公募を開始した。</p> <p>紙面のリニューアルにより、以前と比べ紙面記載量は減ることになったが、各ページにQRコードを掲載するなど、市議会ホームページで詳細の内容を確認してもらうように誘導を行っている。</p> <p>なお、制作費用について、これまでは2色刷りであったものをフルカラー刷りとしたことで、印刷製本単価が9.46円から14.44円に増額となった。</p>

2. 議会報告会について

(1) 本市の現状と課題

本市議会において議会報告会は、議会基本条例に位置付けられており、4年を超えない期間ごとに、検討を加える必要があると認められるときは、所要の措置を講じている。報告会の実施、開催等の運用については、その都度議会広報広聴常任委員会で協議し決定している。

直近では平成29年2月に南足柄市との合併や中核市移行などをテーマにした、市民の声を聴き、執行部への提案につなげるためのシンポジウムを実施した。定期開催を求める声もあり、他市の開催方法や実績を確認する必要があると考える。

(2) 調査目的

議会報告会の先進事例を視察し、市民の声を直接聞く取組が市議会、市政に与える影響、これまでの実績について調査し、本市議会での議会報告会開催基準、開催方法についての参考とする。

(3) 調査概要

箕面市は、地域別と分野別で意見交換会を実施し、市民が参加しやすい環境づくりに努めている。地域別では自宅近くの会場で意見交換会が実施されるため、市民からの評判は良く、参加対象者についても特に規定していないことから広く市民の声を聴くことが可能となっている。分野別では委員会ごとに関連する分野について取り上げ、地元の団体等にも参加を求めている。

地域ごと、分野ごとに異なる要望を間近で聞くことができるが、一方で、市民からの要望等で、議員が長時間にわたり拘束されてしまう場合もあるため、発言時間の制限など、一定のルール作りを行った。

意見交換会後は参加者にアンケートの記入を依頼し、年齢や取組への評価などの確認を必ず行っている。参加者は40代以上が多く、若い世代の議会への関心の低さがあらためて顕わになった。

意見交換会の取組については高評価が多く、市民も議会との対話の機会を求めていることが分かった。

議会の正しい動きを市民に知ってもらうきっかけとなるため、今後も地域別、分野別の意見交換会実施を続けていくとのことである。

3. 考察

箕面市議会だよりはリニューアル後、表紙写真を公募し、その数が毎年少しずつ増えてきている。リニューアルが市民に浸透し始め、読者が増加している様子が伺える。

本市でもより一層、市民に身近に感じてもらえるよう、読みやすい紙面を目指し、文字数の削減とスペースの有効活用を確実に行っていく必要があると感じた。結果的に紙面での情報量は減少してしまうが、ホームページを有効活用することでほぼ全ての情報を把握することができるため、各ページにホームページにリンクするURLやQRコードの記載を行うなど、箕面市と同様にホームページへの誘導を行っていく。

ただし、インターネットが使用できない読者への配慮は必要なことから、掲載記事の内容は簡略化しすぎないように、注意が必要となる。

文字サイズの調整や文字数削減、レイアウト変更など予算の変更を伴わないものでも、作成時の工夫で改善できる部分は多くあると感じた。また、すぐに採用できるようなものが多くあったため、今後の議会だより編集作業の参考となるものであった。

意見交換会については、定期的実施しているが、その実施を知ったきっかけについてアンケートを取ったところ、ホームページやメールマガジン等の議会広報活動がきっかけであったとのことである。

議会について、一人でも多くの市民に関心を持ってもらうためには、議会広報活動がとても重要であり、まずは今行っている議会広報活動をより充実させることが大切であると感じた。

<p>視察地、 調査項目 及び概要</p>	<p>大阪府 八尾市</p>	<p>1. 議会だよりについて (1) 本市の現状と課題 前述のとおり、近年、議会だよりのリニューアルを行う市町村が多くなっている現状から、本市においても市民が手に取りたくなるような紙面づくりと、それに向けた課題の検証や協議が必要とされている。</p> <p>(2) 調査目的 議会だよりの「読みやすさ」「親しみやすさ」を重点要素として紙面リニューアルを行い、実際に市民参画を成功させた市の先進事例を視察し、本市の議会だより編集方針の変更の参考とする。</p> <p>(3) 調査概要 八尾市議会では紙面のリニューアルと同時に議会だよりを市政だよりの合冊での発行に変更した。合冊により、さらに読まれなくなってしまっているのではないかと心配されたが、結果として、合冊にすることで市政だよりを読むながれで、議会ページも目に入ることとなり、市民が議会について目にする機会が増加した。</p> <p>内容面では「伝える誌面づくり」から「伝わる誌面づくり」とし、議会に対して興味・関心を持ってもらうための入り口となるような誌面を目指し、文字数の削減等、誌面の見にくさ等の課題への対応、レイアウトについては専門家に委託するなど、市民がより読みやすくなるよう変更を行った。</p> <p>リニューアルにより、印刷仕様の変更、デザイン委託料、パソコンや編集ソフトの購入費用、フォトライセンス費用など、合わせて約73万円と大幅な経費増となった。しかし、専門家にデザインを依頼することで、文字、空間、写真、イラスト、図などのバランスがとれた誌面づくりが可能となり、読者からも高評価である。</p> <p>また、多くの市民に読者になってもらうため、議会だよりをスマートフォンで閲覧できるスマートフォンアプリ「マチイロ」を採用し、誌面に掲載されているURL等を選択すると、そのまま市議会ホームページにアクセスできるような仕組みになっている。</p> <p>2. タブレット端末を利用した広報広聴の取組 (1) 本市の現状と課題 本市議会では、市議会だよりの紙面チェック等は全て印刷した資料で行っている。その際、コピーのため字荒れや写真の解像度不足といった支障が起きている。また、表紙写真や議会トピックスは完成イメージの把握が必要なため、カラー印刷が必須となり、印刷コストも多大なものとなっている。</p> <p>(2) 調査目的 タブレット端末導入を議会広報広聴活動にどう活かせるか、導入事例を参考にタブレット端末が採用となった場合の活用方法について調査する。</p> <p>(3) 調査概要 八尾市議会では、議会が主導となりタブレット端末導入を決定した。導入にあたり、機械操作が苦手な議員に対してどのように説明していくかが課題となり、勉強会を複数回開催してきた。</p> <p>タブレット端末を導入したが、タブレット端末で閲覧する資料と同じものを、紙ベースでも配布しているため、結果的に多くの議員が紙ベースの資料を希望するようになり、以前の状態に戻ってしまった。一部の使用されなくなったタブレット端末は、議員から返却され、事務局で預かっている状態となっている。</p> <p>今後はタブレット端末の全面的な導入に向け、あらためて調整を行っていくとのこと。</p> <p>3. 考察 議会だよりは市民と議会を結びつけるパイプとしての役割を担ってい</p>
-------------------------------	--------------------	--

る。情報を漏らすことなく伝えようとするあまり、必要以上に文字を詰めすぎてしまい、読みづらい紙面となってしまうがちである。本市も例外ではないため、早急な改善が必要である。

広報媒体は見てもらうことが一番重要であるため、議会だよりの存在を広く周知する必要がある。ホームページの新着情報で「議会だよりの」という文字を強調する、メールマガジンで周知するなど、活用可能な広報媒体は全て有効活用していくことが大事である。

誌面のレイアウトについて、箕面市、八尾市ともに議会だよりのリニューアルの際に、適度な空白部分を取り入れ読みやすいようにしている。2市以外でも、リニューアルした議会だよりをみると、適度に空白部分を取り入れている例が多い。

隙間なく記事を並べることが大事なのではなく、あえて空白部分を取り入れ、読者が集中して一つ一つの記事を読むことができるレイアウト作りが重要となる。

また、八尾市が採用しているスマートフォンアプリ「マチイロ」についてはすでに600の自治体で導入済みとのことで、本市も紙面リニューアル後の市民の反応によっては、検討の余地はあるかもしれない。

タブレット端末の導入にあたっては、機械操作が困難な議員や職員へ、どのようにレクチャーするかが大きな課題になると感じた。他市の成功事例のように、タブレット端末の導入と同時に紙ベースの資料提供を中止するといった対応を必要に応じて行い、勉強会を開催したり、個別にレクチャーを行ったりする必要があると感じた。

また、議員個人の情報発信は各自で保有している携帯電話・スマートフォンからでも可能であり、必ずしもタブレット端末の導入が必要なものとはなっていない。

議会広報活動については、市議会メールマガジン、市議会ホームページ、市議会だよりの、議員個人のSNS発信をより充実させる方がより効率的であることが明らかになった。